

都心集合住宅を活用した 地域コミュニケーションデザインの試み ～NEXT21第3フェーズにおける実践の開始～

弘本由香里

これからの都市の暮らしを持続的に豊かに支えていくためには、省資源・省エネルギーはもちろんのこと、既存の住宅・建築が長く安全に使い続けられるとともに、個々の建物とまちと人の関係が豊かに紡ぎ出されていくことも大切な条件となります。

大阪の歴史・文化の原点ともいえる上町台地上に、NEXT21が誕生して十数年が経ちました。そこで、第3フェーズ実験の一環として、1階の小空間を「上町台地コミュニケーション・ルーム(U-CoRo=ゆーこーろ)」と称し、その窓からウィンドウ・エキジビションやワークショップなど、上町台地の時空につながり、出会いを紡ぎ、暮らしを育む、地域コミュニケーションデザインの試みに取り組みます。

近年大阪都心部ではマンション建設が相次ぎ、新たに上町台地の住人となる方々も多くなか、こうした取り組みが、人々とまちをつないでいくインターフェイスの実践例となることを目指しています。

テーマ1:

地域文化の再発見

上町台地に息づく歴史・文化からまちづくり活動まで、地域魅力の紹介など

テーマ2:

多世代・多文化共生

こどもから高齢者まで、多様な生活者のクオリティ・オブ・ライフの提案など

テーマ3:

減災文化の創造

都市防災・減災につながる生活文化づくり、暮らしの知恵の収集・発信など

テーマ4:

自然・環境の再生

都市における自然の再発見と、環境に配慮したライフスタイルの提案など



上町台地の生活・文化を支える地域のみなさまをはじめ、NPO や行政、博物館や大学等研究機関のみなさまとの協働によって、まちと暮らしをつなぐテーマ展示等を展開します。



U-CoRo の窓がインターフェイスに

U-CoRo 第1弾企画

ウィンドウ・エキジビジョン 01 「上町台地まつり絵巻」

第3フェーズ居住実験の開始に先駆けて、新たな居住者や見学者が上町台地の生活文化にアクセスし、この地への愛着を醸成するきっかけとなることを意図して、第1弾企画では、上町台地に息づく歴史・文化の象徴「まつり」を取り上げます。

古代の記憶を宿す祭礼から現代のフェスティバルまで、上町台地界隈に繰り広げられるまつりの数々を、春・夏・秋・冬と季節を辿る絵巻風のウィンドウ・ディスプレイで紹介しています。

また、上町台地のまつりMAPや、まつりカレンダー、参考図書情報をコンパクトに集録した、小さな栞『U-CoRo 独案内(ひとりあんない) vol.01』も会場で配布し、まちに出かけるツールとして活用いただく仕掛けとしています(独案内とは、まちや物事に不案内な人を助ける携帯便利な冊子のことです)。



U-CoRo「上町台地まつり絵巻」展示風景(上)



まちと人をつなぐツール「U-CoRo 独案内」(右)

NEXT21が立地する上町台地界隈の魅力

大阪城付近を北端に大阪市内中心部を南北に貫く上町台地。古代には四天王寺や難波の宮が、中世から近世にかけては本願寺や大阪城、寺町が築かれるなど、まさに歴史の舞台そのものでした。現在も、大阪の都心部にあって、歴史・文化、国際交流、医療・福祉、教育、宗教...と、多様な地域資源に恵まれた地域です。近年こうした地域資源に根ざしながら、市民発のユニークなまちづくり活動の数々も誕生しています。

都心居住の適地として注目を集める上町台地一帯(大阪環状線の内側約900ha)は、大阪市における都心居住のリーディングゾーンと位置付けられ、魅力ある居住地づくりに取り組むNPO等と大阪市が協働で、住むまちとしての大阪の文化を創造・発信していく「上町台地マイルドHOPEゾーン事業」(上町台地のうち大阪環状線の内側約900ha)も行われています。